

# NPO 法人ふぁーすとすてつぷ' s 堺 定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、NPO 法人ふぁーすとすてつぷ' s 堺という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を大阪府堺市北区東浅香山町 2-231-20 3F に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、不特定多数の者に対して、障がい者支援及び動物保護に関する事業を行い、公益の増進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業
  - ② 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業
  - ③ 動物殺処分にならない支援事業

## 第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

(2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとするものは、代表理事が別に定める入会申込書により、代表理事に申し込むものとし、代表理事は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 代表理事は、前項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、代表理事が別に定める退会届を代表理事に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

## 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第12条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人
- (2) 監事 1人

2 理事のうち、1人を代表理事とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 代表理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第14条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 代表理事以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第 17 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第 18 条 役員は、その総数の 3 分の 1 以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前 2 項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(職員)

第 19 条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、代表理事が任免する。

## 第 5 章 総会

(種別)

第 20 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種とする。

(構成)

第 21 条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第 22 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営

(10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第 23 条 通常総会は、毎事業年度 1 回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 5 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 14 条第 4 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第 24 条 総会は、第 23 条第 2 項第 3 号の場合を除き、代表理事が招集する。

2 代表理事は、第 23 条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 30 日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面、ファックスまたは電磁的方法をもって、少なくとも会日の 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 25 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第 26 条 総会は、正会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第 27 条 総会における議決事項は、第 24 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第 28 条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面または電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第 26 条、第 27 条第 2 項、第 29 条第 1 項第 2 号及び第 43 条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決については、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 29 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名または記名押印をしなければならない。

3 前 2 項の規定に関わらず、正会員全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があつたとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 総会の決議があつたものとみなされた事項の内容

(2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

(3) 総会の決議があつたものとみなされた日

(4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第 6 章 理事会

(構成)

第 30 条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第 31 条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第 32 条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 代表理事が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 第 14 条第 4 項第 4 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 33 条 理事会は、代表理事が招集する。

2 代表理事は、第 32 条第 2 号及び第 3 号の規定による請求があったときは、その日から 15 日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面、ファックスまたは電磁的方法をもって、少なくとも会日の 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 34 条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(議決)

第 35 条 理事会における議決事項は、第 33 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 36 条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、第 35 条第 2 項及び第 37 条第 1 項第 2 号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 37 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）

- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名または記名押印をしなければならない。

## 第7章 資産及び会計

### (資産の構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

### (資産の管理)

第39条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、代表理事が別に決める。

### (会計の原則)

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

### (事業報告及び決算)

第41条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

### (事業年度)

第42条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり3月31日に終わる。

## 第8章 定款の変更、解散及び合併

### (定款の変更)

第 43 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第 44 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 45 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、堺市に譲渡するものとする。

(合併)

第 46 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第 9 章 公告の方法

第 47 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第 28 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所に掲示して行う。

## 第 10 章 雑則

(細則)

第 48 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

代表理事 米澤 浩哉

理事 隅田 優

同 若竹 麻代

監事 倉島 進

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 15 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から令和 8 年 6 月 30 日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、設立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第 42 条の規定にかかわらず、成立の日から令和 7 年 3 月 31 日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員入会金 0 円

正会員会費 年額 12,000 円

(2) 賛助会員入会金 0 円

賛助会員会費 年額 6,000 円

# 令和8年度事業計画書

(令和8年4月1日から令和9年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ふぁーすとすてつぷ s 堺

## I 事業の実施方針

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業および児童福祉法に基づく障害児相談支援事業の実施にあたっては、利用者や保護者の意向を踏まえながら、公正中立な立場で必要な福祉サービス等の利用調整を行い、関係機関との連携を図りながら継続的な支援を提供します。

また、人と動物が共生できる地域社会の実現を目指し、動物の適正飼養の啓発、保護動物の譲渡支援、地域住民への情報発信等の活動を通じて、不幸な命を減らし、殺処分のない社会づくりに貢献します。

## II 事業の実施に関する事項

### 1 特定非営利活動に係る事業

(1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業

【内 容】 障害のある方が必要な福祉サービスを適切に利用し、地域で安心して生活できるよう相談支援を行います。

【実施場所】 堺市全域

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病等対象者

【収 入】 4,200,000 円 (計画相談支援費)

【支 出】 3,083,000 円 (事業費)

(2) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

【内 容】 障害のある児童とその家族が、必要な障害福祉サービスや支援を適切に利用し、安心して地域生活を送ることができるよう支援することを目的とします。

【実施場所】 堺市全域

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、精神障害児、発達障害児、重症心身障害児

【収 入】 3,000,000 円 (障害児相談支援費)

【支 出】 2,202,000 円 (事業費)

(3) 動物殺処分にならない支援事業

【内 容】 動物愛護団体を支援し、動物の殺処分防止に取り組みます。

【実施場所】 全国

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 動物愛護団体及び保護動物

【収 入】 300,000 円 (PR 受託収入費)

【支 出】 235,700 円 (事業費)

令和8年度活動予算書  
令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

特定非営利活動法人ふぁーすとすてつぷ's堺  
(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	1,200,000	
賛助会員受取会費	300,000	
		1,500,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	100,000	
施設等受入評価益		
		100,000
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	50,000	
		50,000
4. 事業収益		
①障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業	4,200,000	
②児童福祉法に基づく障害児相談支援事業	3,000,000	
③動物殺処分にならない支援事業	300,000	
		7,500,000
5. その他収益		
受取利息	1,000	
雑収益	0	
		1,000
経常収益計		9,151,000
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
講演会・セミナー事業		
雑給	100,000	
事務分担金	350,000	
会場費	50,000	
通信費	50,000	
広告宣伝費	150,000	
交際費	200,000	
相談支援事業		
相談支援員報酬	3,600,000	
事務分担金	322,700	
講師料	60,000	
旅費交通費	3,000	
消耗品費	300,000	
通信費	35,000	
交際費	100,000	
支払手数料	0	
動物殺処分にならない支援事業	200,000	
事業費計		5,520,700
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当		
業務委託費	2,400,000	
人件費計	2,400,000	
(2) その他経費		
会議費		
旅費交通費		
事務所家賃	264,000	
支払報酬	400,000	
雑費	50,000	
その他経費計	714,000	
管理費計		3,114,000
経常費用計		8,634,700
当期経常増減額		516,300
<b>III 経常外収益</b>		
1. 固定資産売却益		0
経常外収益計		0
<b>IV 経常外費用</b>		
1. 過年度損益修正損		0
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		516,300
前期繰越正味財産額		△ 3,960,266
次期繰越正味財産額		△ 3,443,966

# 令和9年度事業計画書

(令和9年4月1日から 令和10年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ふぁーすとすてつぷs堺

## I 事業の実施方針

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業および児童福祉法に基づく障害児相談支援事業の実施にあたっては、利用者や保護者の意向を踏まえながら、公正中立な立場で必要な福祉サービス等の利用調整を行い、関係機関との連携を図りながら継続的な支援を提供します。

また、人と動物が共生できる地域社会の実現を目指し、動物の適正飼養の啓発、保護動物の譲渡支援、地域住民への情報発信等の活動を通じて、不幸な命を減らし、殺処分のない社会づくりに貢献します。

## II 事業の実施に関する事項

### 1 特定非営利活動に係る事業

#### (1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業

【内 容】 障害のある方が必要な福祉サービスを適切に利用し、地域で安心して生活できるよう相談支援を行います。

【実施場所】 堺市全域

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病等対象者

【収 入】 7,060,000 円 (計画相談支援費)

【支 出】 4,390,000 円 (事業費)

#### (2) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

【内 容】 障害のある児童とその家族が、必要な障害福祉サービスや支援を適切に利用し、安心して地域生活を送ることができるよう支援することを目的とします。

【実施場所】 堺市全域

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、精神障害児、発達障害児、重症心身障害児

【収 入】 6,800,000 円 (障害児相談支援費)

【支 出】 4,220,000 円 (事業費)

#### (3) 動物殺処分にならない支援事業

【内 容】 動物愛護団体を支援し、動物の殺処分防止に取り組みます。

【実施場所】 全国

【実施日時】 月曜日～木曜日 10:00～17:30 金曜日 10:00～17:00

【事業の対象者】 動物愛護団体及び保護動物

【収 入】 600,000 円 (PR 受託収入費, グッズ販売収入費)

【支 出】 240,700 円 (事業費)

令和9年度活動予算書  
令和9年4月1日から令和10年3月31日まで

特定非営利活動法人ふぁーすとすてつぷ's堺  
(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	1,800,000	
賛助会員受取会費	480,000	
		2,280,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	100,000	
施設等受入評価益		
		100,000
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	50,000	
		50,000
4. 事業収益		
①障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業	7,060,000	
②児童福祉法に基づく障害児相談支援事業	6,800,000	
③動物殺処分にならない支援事業	600,000	
		14,460,000
5. その他収益		
受取利息	1,000	
雑収益	0	
		1,000
経常収益計		16,891,000
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
講演会・セミナー事業		
雑給	100,000	
事務分担金	350,000	
会場費	50,000	
通信費	50,000	
広告宣伝費	150,000	
交際費	200,000	
相談支援事業		
相談支援員報酬	6,930,000	
事務分担金	322,700	
講師料	60,000	
旅費交通費	3,000	
消耗品費	300,000	
通信費	35,000	
交際費	100,000	
支払手数料	0	
動物殺処分にならない支援事業	200,000	
事業費計		8,850,700
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当		
業務委託費	2,400,000	
人件費計	2,400,000	
(2) その他経費		
会議費		
旅費交通費		
事務所家賃	264,000	
支払報酬	400,000	
雑費	50,000	
その他経費計	714,000	
管理費計		3,114,000
経常費用計		11,964,700
当期経常増減額		4,926,300
<b>III 経常外収益</b>		
1. 固定資産売却益	0	
経常外収益計		0
<b>IV 経常外費用</b>		
1. 過年度損益修正損	0	
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		4,926,300
前期繰越正味財産額		△ 3,443,966
次期繰越正味財産額		1,482,334